令和２年　決算特別委員会3日目【民生費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

　私からは、２１９ページ、認知症高齢者支援事業、２２１ページ、福祉人材確保・定着事業について質問いたします。

　私事になりますが、先月、介護職員初任者研修の資格を取得してまいりました。当事者の方とのお話、また介護職員とのお話もとても勉強になりますが、実際に実習し学ぶことこそ、介護における重要なことが見えてくるのではないかと思いました。この資格は身体介護をする上で必要な資格で、介護という言葉の深さ、自分らしく生きる喜び、介護職員の思いを改めて感じました。障害や認知症に対するイメージも大きく変わり、知るということこそとても大切なことであります。

　そこで、昨年の一般質問でも質問しましたが、認知症サポーター養成講座についてお聞きいたします。品川区では認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家庭に対して温かい目で見守る応援団として認知症サポーター養成講座を開催しております。私も今年度、受講する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で叶わず、内容が分かりません。この認知症サポーター養成講座の内容はどのようなもので、講師の方はどのような人がやっているのか、教えてください。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　認知症サポーター養成講座に関するお尋ねでございます。

　認知症サポーター養成講座は、認知症になってもその人らしく地域で暮らし続けるために、認知症の正しい理解者、応援者であるサポーターを養成しようということで、これを養成することにより、本人やご家族を地域で支えることができる、その仕組みの一つとして説明させていただいているところでございます。講座は、基本的に在宅介護支援センターに委託させていただいております関係で、講師の方は主にそちらのケアマネジャーたちにお願いしているところでございます。

【松澤質問】

　認知症の方や当事者の方が講師として参加したお話、私もいろいろ聞いてまいりました。大切なことは、講師がみんな違うことを伝えるのではなくて、ここが重要だというポイントを絞ることではないかと感じました。認知症の方ができないことを探すのではなく、できることを探すといった視点であったり、その人の生きてきた歴史や人生への思い、自分で決定するという支援。要介護状態の方を、治らない患者ではなく、自分なりの人生、生活を一生懸命に生きる人であり、その人を生活の主人公としての立場から理解し、それを側面から支える介護職員の気持ちなど、それぞれの思いを伝えていただきたいと思っております。講師は一般に、認知症養成講座の講師資格を持ったキャラバン・メイトが行っているという認識がありました。大田区では主に地域包括支援センターの職員が行っています。こうした中、品川区では、在宅介護支援センターのケアマネジャーに対して、そういった認識を広げる意味で、講師に対してどういったお願いをしているのでしょうか。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　認知症サポーター養成講座の主な講師役となりますケアマネジャーに対しては、区で標準教材を用意させていただいております。こちらを使っていただくことによって、様々な場所、違う講師が違う会場で、いろいろな場面でご講義を頂くようになるのですが、内容に偏りや違いが出ないように、そういったところで標準教材を用いることで工夫をさせていただいております。テーマは大きく２つございます。１つは、やはり認知症とはというところから基礎知識をしっかり学んでいただくということ。それから、認知症サポーター養成講座を受けた方々が、受け終わった後に地域で、どのようなサポート、支援ができるか。こういったことを２つの大きなテーマとして教材に使用させていただいているところでございます。

【松澤質問】

　認知症サポーターが今後どのような支援をという部分で、認知症サポーターの方々に、それ以降、行政から、これをやってくださいというものがなかったり、地域からもお声がないという話があるのです。そういった部分で、品川区から、受講したら終わりではなくて、サポーターの方たちと何か一緒にやれるような取組みというお考えはありますでしょうか。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　例えば、先ほど委員からお話がありましたように、キャラバン・メイトの養成研修。これはまさに、講座を受けた方が、今度は自分が講師になる、このような制度になっております。例えばサポーターの方の１つの役目として、サポーターの講座が終わったら、次はキャラバン・メイトになっていただく。このようなことも１つ、策としてあるのではないかと考えております。

【松澤質問】

　品川区では、アルツハイマー月間に合わせまして、３階の廊下で、認知症の理解を深めるパネルを展示し、認知症支援のイメージカラーであるオレンジの色の花を「みんなの談義所しながわ」の方々と植栽するなど、認知症になっても安心して住み続けられるまちづくりに多大なるお力添えを賜り、大変感謝しております。引き続きよろしくお願いいたします。

　続きまして、品川区における介護事業施設、これを品川区で発行している「ハートページ」で調べたところ、そこに記載があるだけで約３５０の事業所の掲載がありました。この数字はあくまでも「ハートページ」に登録がある事業所の数であり、もっとたくさんの施設があるかと思います。そこで、これだけある民間施設ですが、品川区では全体の稼働率や職員の人員状況を把握していますでしょうか。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　今、委員からお話がありましたように、一口に介護サービスを提供する施設、事業所といっても本当に様々ございます。区立のもの、民立のもの、たくさんございます。必ずしも、逐一、個々の事業所全ての状況を事細かに把握していない部分は確かにございますが、そうはいいましても、区で毎年必ずサービスの種類ごとに事業者にお集まりいただいて、情報共有、情報交換、意見交換といったものを設けさせていただいているところでございます。

【松澤質問】

　現在、特別養護老人ホームには３００人から５００人ほどの待機者がいらっしゃいます。実際には重複者がいるので正確な数字とは言えません。もしかしたら、入所できる施設もあれば、人が足りない施設もあるかもしれません。そういった部分で、品川区高齢者福祉課を中心に、６か所で地区を分け、相談窓口をやっております。やはりここでしっかりと把握して、地域包括部分では必要になることであって、要は、もっといろいろなところに、「こういう制度がありますよ」とか、「小規模多機能型だったら、実はここは入れるんですよ」といった、区民の知らないサービスをもっと教えられるのではないかと思うのですけれども、待機者を減らす道という部分でご見解をお聞かせください。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　今、委員からご提案いただきましたように、施設の状況、それから例えば定員の充足状況ですとか、しっかりとそういったものの把握に努めるということはとても大事なことだと思っております。ですので、ふだんからも、ケアマネジャーが高齢者の方と個別に接するときに、逐一、例えば、この方はこういう施設・サービスが適しているのではないかという相談の中で、ケアマネジャーが、すぐその場で空きの状況を確認させていただいたり、常にその方にとって何が一番ベストなサービス提供なのかといった視点は、今後とも持っていきたいと思っております。

【松澤質問】

　引き続き、いろいろとご努力をよろしくお願いします。

　次に、福祉人材確保について少し質問させてください。午前中、芹澤委員からも質問がありました。品川介護福祉専門学校、人数が足りていないという話でしたが、これは、全国で唯一、地域で活躍する福祉人材の育成を目指して社会福祉協議会が設置している専門学校です。この品川介護福祉専門学校は、要は介護職員が少ないからそのために設立したのか、介護福祉士を充実させたいために設立したのか。その部分だけ少し教えてください。

【宮尾高齢者福祉課長答弁】

　品川介護福祉専門学校に関するお尋ねでございます。品川介護福祉専門学校は、どちらかというと、今、委員がお話しいただいた後者のほうに近い、介護人材を安定的に区内の施設に供給したいというところからスタートしたものだと認識しております。

【松澤質問】

　今、いろいろと人材不足の中、大変すばらしい制度だと思っております。なかなか定員が充足できないという部分で、いろいろな努力をしていただいていると思いますが、これからの介護の世界に対して人材というのは多大な財産でありますので、引き続き今後ともどうぞよろしくお願いいたします。